2025年8月4日発行（毎月12回2・4・6・8の日）　第5661号
SSTL1994年8月24日第三郵便物承認

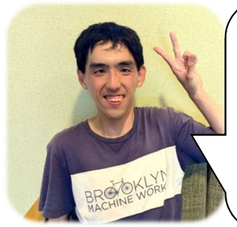
# 今月の利用者紹介

今月は、皆さんが好きなテレビ・映画　Youtube チャンネルを紹介します

（所属／①名前　②好きなテレビ番組　Youtube チャンネル　③その理由は？）

**けやき社会センター**
**① 鈴木 丈也 さん**
**② 料理番組**
**③ 美味しそうだから！**

**けやき社会センター**
**① R･E さん**
**② ドラゴンボール**
**③ バーダック･悟空が好き!**



**はるか（B型）**
**① 加藤 翔太 さん**
**② Live News イット！**
**③ ガチャピンが出てる！**

**はるか（移行）**
**① 小熊 亮 さん**
**② ハリーポッター**
**～秘密の部屋～**
**③ 全部おもしろいから！**

**おおばん**
**① 青野 開太 さん**
**② それいけ！アンパンマン**
**③ キャラクターが好き！**

**おおばん**
**① 堀口　明菜 さん**
**② 鬼滅の刃**
**③ 面白いから**
**（炭治郎が好き！）**

**ふれんず**
**① 茅野 悠太 さん**
**② ベイブレードＸ**
**③ かっこいいから！**

**ふれんず**
**① 原田 悠平 さん**
**② 機関車トーマス**
**③ 色んなキャラクターが**
**出てくるから！**

～編集後記～
初めて広報委員となりました、はるかの大野です！
我が家には、6 歳と 4 歳の子どもがいます。
毎日、キャーキャー！ドタドタバッタン！とにぎやかで、家の中はまるで動物園…
元気いっぱいな 2 人に振り回されながら、母はたくましく進化中です。
家庭も仕事も、楽しんで頑張ります！　（はるか　大野 有珠）



2025年8月4日発行（毎月12回2・4・6・8の日）通巻 第5661号　発行人　埼玉県障害者団体定期刊行物協会
1994年　8月　24日　第三種郵便物承認
川口市芝新町15の9　頒価　50円
郵便振替　00100―8―411223

2025年8月4日発行（毎月12回2・4・6・8の日）　第5661号
SSTL1994年8月24日第三郵便物承認

～ そ よ 風 の よ う に 街 に 出 よ う ～

S S T L

# つ く ば ね 通 信

社会福祉法人つくばね会
代表　千葉県我孫子市都部新田３７－２
ＴＥＬ　０４―７１８７―１９４４
ＦＡＸ　０４－７１８７－１９４７
ＨＰ　http://tukubanekai.sakura.ne.jp/
編集・発行：けやき社会センター・はるか
おおばん・ふれんず・楓・サポートセンターけやき

## 福祉職員はスーパーマン

つくばね会にご縁をいただいて早 21 年、長いようで短いような‥
ドラマチックな日々を積み重ねて、今日に至ります。厨房のおばちゃんから、支援員にしていただいた時、驚いたことがたくさんありました。それは利用者に寄り添う福祉職員の多様な仕事ぶりです。

早朝からパンの仕込みを 4 種類もしたかと思えば、利用者さんのトラブルの仲介に。ある時はカラオケ大会で美声を響かせたかと思えば、親の困りごと相談にも額を突き合わせる。旅行においては、スケジューリングから夜の大宴会の司会。添乗員からカメラマン、時にはバスの運転まで。就労移行においては就職の職種選びから面接の特訓・同行・就職後の企業と間に入り定着支援まで。利用者の就職が決まり、卒業式の際には、利用者本人より先に、感無量で涙する職員 etc.

たくさんの場面を共に重ねてきて、頑張る福祉職員はスーパーマンだと思います。障害を持った方々が毎日楽しく、自分らしく、輝いて日々を重ねるために奮闘する職員の処遇や社会の認知なども、6 月に発表されました。千葉県障害福祉（障害児支援）人材確保・職場環境改善事業などをきっかけに、変わって行ってほしいと思います。一般企業で働くサラリーマンや公務員の方々に肩を並べられる給与になったら、もっとたくさんの若者に福祉スーパーマンを目指していただけるのではないでしょうか。

福祉職員といっても業務内容は多岐に渡り、事業所によって、求められる能力・スキル・知識は様々。利用者の命を預かる者として、人生に寄り添う一人として、日々研鑽を重ね、崇高な精神で支援に望まなければなりません。

つくばね会でも、人事考課を実施し、春に設定したそれぞれの目標を秋の面談で確認します。一人ひとりが自己覚知をし、利用者本位の行動の事実を積み上げ、それぞれの成長に繋げていく。人材育成のひとつとして取り組んでいます。

誰かのために頑張るスーパーマン達。その頑張りを考課する一人として、職員が頑張っている場面を見落とさず、感謝し、励まし、癒せる自分を目指したいと思います。
スーパーマンも日々努力を積み上げているのです。　（はるか 管理者　三代晃子）

# 研修に参加して

第 52 回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会に 7 月 3 日、4 日の二日間参加しました。今回のテーマは「桜梅桃李～ひとりひとりが輝くまち～」です。

1 日目はアートを通じて表現活動を行う NPO 法人の講演を受講しました。この法人は障害のある人や生きにくさを抱えている人達が表現活動を通じて幸せに生きる社会の実現を目指して設立されました。デザイナーや行政等の多職種と連携し、手描きの紙すき、手織り作品の展示・販売を行うことで、障害の有無を超えて自由に表現する場をつくり、社会とのつながりを広げています。

けやきの DAY 班でも最近新たな作業活動として“紙すき”に挑戦しており、利用者の方もどんな出来栄えになるか楽しみながら作業に取り組まれています。一つの作品が完成すると「次はこの色を足したい」「このスタンプを押したい」等、次々とアイデアが生まれます。アートは正解がないからこそ、自由に個性を表現できる貴重な時間だと改めて感じました。

2 日目は意思決定支援をテーマにした講演が行われ、生活介護事業所に通所されている利用者の事例が紹介されました。高校在学中は歩行が可能でしたが、卒業後に難病を患い、車椅子生活となり医療的ケアが必要となりました。卒業後の進路として今在籍の事業所を希望されましたが、事業所にとって医療的ケアが必要な方は初めてのこと。ただ、本人の意思を尊重し、ナースの配置や多職種連携を整えて受け入れた経験により、事業所全体が利用者の意思決定をより丁寧に考えるきっかけとなったそうです。

今回の研修で学んだことはまさに「桜梅桃李」。人にはそれぞれの個性があり、必ずその人にしかない良さがある、ということです。これは利用者支援だけでなく自分自身にも当てはまります。無意識に私の短所と他人を比べてしまうことが多かったですが、私に余裕がなければ良い支援を行うことも難しいです。マイナスではなくプラス思考を意識し、利用者の皆様に対しても、一人ひとりの内面や想いに丁寧に寄り添いながら、より良い支援を行っていきたいと思います。

（けやき社会センター　白井 花帆）

# 福祉のきっかけ

私が福祉に興味を持ったきっかけは小学生の時に特別支援学級の生徒と交流をもったことでした。当時の感情を言葉にすると、子どもながらに興味をもった、気になることが沢山あったというのが素直な気持ちだったと思います。それに加えて特別支援学級の先生にとても可愛らしい女性の先生が数名いたこともきっかけの一つだったと思います。私もあの先生達みたいになりたい！と単純に憧れた事がきっかけで、将来の夢は？と聞かれると特別支援学校の先生と答えるようになっていきました。

当時の私は、支援学級の友達と仲良くなってみたいけれど話しかける勇気も出ず、合同授業の際に関わる程度で小学校卒業となってしまいました。また中学、高校では特別支援学級が無い学校だった為、関わりもなくなってしまいました。

そして受験の時期になると福祉の中に沢山の分野がある事を知りました。高校生の時点では自分が福祉のどの分野で働きたいか分からなくなってしまっていて、特別支援学校の先生というよりかは福祉が学べる学校に進もうと思い進学をしました。

就職活動をする年齢となっても、どれかひとつの分野に決める事が出来ずにいた時に訪問美容という職業を知りました。美容師を持っていればすべての方と関わることができるのでは？という一つの答えがでました。そこから昼間は就労継続 B 型の非常勤として働き、夜は美容学校に通う生活となりました。その施設の皆さんが、美容師を目指しながら働いている私を受け入れ、応援してくれた事が再び私にとって障害分野で働きたいと思えるきっかけともなったと思います。

それから訪問美容師として働く事ができ、沢山の方と出会い、貴重な経験をさせてもらいました。そんな日々の中で、美容師として髪を切るだけの関係だけではなく支援がしたい気持ちがあることに気づく事ができ、障害福祉の支援員として働けることになりました。これまでの出会いや経験に感謝し、これからも“日々のつみかさね”を大切に皆さんと過ごしていきたいです。

（けやき社会センター　三崎 彩夏）



2025 年 8 月 4 日発行（毎月 12 回 2・4・6・8 の日）　第 5661 号
SSTL1994 年 8 月 24 日第三郵便物承認

# ～AED講習を受講して～

防災委員会の企画として、AED 講習（普通救命講習Ⅰ）を昨年度 3 回、今年度 1 回の計 4 回、つくばね会の全職員を対象に行いました。実施目的は、基礎疾患のある方が多く利用している障害児者施設において、いつ何時何が起きてもおかしくない状況の中で働いている我々職員が、心肺蘇生等を速やかに行えるようにしておくことは大事なことではないか、委員会で話し合ったことがキッカケでした。

我孫子市消防本部警防課の職員にお越しいただき、講義を交えながら実技（心肺蘇生法、AED の取扱方法等）を2時間かけて丁寧にご教授いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。講義の中で印象に残っている言葉があります。

「救命救急講習を2年に1回程度、受講するようにしてください」

私は、その言葉に共感したのを今でも強く心に残っています。何故なら私は、昨年の 10 月とその 5 カ月前の 5 月（防災士の資格取得の際）、さらには一昨年の 11 月（上級救命救急講習）に受講していたため、10 月の講義時には半年に 1 回のペースで受講していたことにより、周りの人を見ながら行うこともなく、また恥ずかしがりながら行うこともなく、やり方、考え方を上書きし慣れていたことにより、本当に目の前に急病人がいることを考えながら慌てずに自信を持って行う事ができたのです。

さて、今年はいつ受講しに行こう。利用者の皆様の命を守るためにも。

（けやき社会センター　小嶋 史樹）

# 外作業の夏対策～暑さに負けずに頑張ってます！～

近年、毎年平均気温は上がり続け、6 月にもなると 30℃を超える日も珍しくありません。早期の熱中症対策が呼びかけられている昨今。スポーツ協会作成の運動指針によると 31℃以上では体育自体を中止するべきとのことですが、仕事となると必ずしもそういうわけにはいきません。今回は「はるか」が外での作業の際、利用者の命を守る為に行っていることをいくつかご紹介します。

まず休憩や水分補給をこまめに取り、いつでも身体を冷やせるよう冷房車を準備。必要に応じて塩分タブレットの提供や、経口補水液の購入、頭や患部を冷やせるように氷嚢や冷感スプレーをクーラーボックスに常備。利用者さんには帽子の着用の徹底と涼しい格好を呼びかけると共に、首に巻くクーラーリングを各個人に用意しています。現場によっては扇風機を常に回し、身体を少しでも冷やせるようミストを噴霧したりと工夫をしています。また作業後にははるかにてかき氷を提供しており、「今日はかき氷がありますよ！」と言うと、「やったー！」と皆さん大盛り上がり。他にも「みんなテントの下に入ろう！」や「水分摂った人は車で休憩しましょう！」等、利用者同士で声を掛け合っている様子も見られるようになりました。皆さんモチベーション高く作業に取り組んでいて、仕事したくないという方は誰一人いらっしゃいません。

今後も命を守ることを最優先に考え、一丸となって、この夏を楽しく乗り切っていきたいと思います。

（はるか　植原 大輔）

# 共有と連携、そして支援へ

グループホーム専属での仕事を行うようになり数ヶ月。これまでも、グループホーム利用者への支援は行っていますが、ホーム内で接する機会が多くなったことで支援において深く考えるようになりました。そんな中、以前から担当している利用者がある診断を受け「食生活の改善と運動への取り組み」を検討することとなり、グループホーム担当者、通所先の担当者、看護師とで情報共有の場を設けました。

グループホーム担当者「週末のお昼用には主にパンを購入することが多い」、通所先担当者「昼はお弁当を注文する。現在、お肉中心のお弁当を注文することが多い、運動はほぼ行う機会がない」、看護師「標準的な体重の話や、リバウンドが無いように１ヶ月１～２キロ減を目標にしたほうが良い」等の情報交換を行いました。そして私たちは、それぞれの立場でどんな支援ができるかを検討しました。

食生活の改善と運動の機会を少しでも設けていくことを目的に、通所先では「お肉メインだったのを、週３回は魚メインのお弁当にし、週１回は好きなお弁当にする、昼休みに軽い運動の機会を取り入れる」、グループホームでは「週末の土曜日はウォーキングを兼ねて昼食を購入する、内容も低カロリーのお弁当に変更する」と検討し、利用者に提案すると快諾され、５月から取り組みを始めました。

歩くのが苦手だった方でしたが、今は苦痛ではないと話し、現在まで一度も弱音を吐かず取り組んでいます。また、利用者が１人で昼食を購入する際は、バランスの良いお弁当を選択するなど、ご本人の意識にも変化が表れています。そして何よりも、ご自身の体にも少しずつ変化が表れている様子。これは、通所先、グループホームが同じ目標を持って取り組んだ成果だと感じています。

今回の利用者への取り組みから、利用者支援は、グループホームのみで考えるのではなく、利用者が関わる事業所、家庭、相談員の方々と連携し、情報を共有しながら取り組むことが重要だと改めて感じました。今後も情報を共有し、連携を行いながら、利用者支援に取り組みたいと思います。

（グループホーム　檜田 道子）

# 地域で安心して生活できるために

相談支援事業所サポートセンターけやきでは計画相談支援以外に、地域移行支援というサービスも提供しています。地域移行支援とは、障害者支援施設等及び精神科病院に入所・入院している障害者に対して、住居の確保や障害福祉サービスに体験利用・体験宿泊のサポートなど地域生活に移行するための支援です。

サポートセンターけやきでは年間３件程度実施しており、今年度は現在進行中が１件、近いうちに２件受ける予定です。今までのケースの多くは、精神科病院に入院している方が、退院後自宅ではなく、グループホームに入居し、日中は生活介護事業所や就労継続支援 B 型などに通所に至るまで入院中に見学、体験を行い、退院後スムーズに地域で生活できるように調整しています。支援期間は６ヶ月間が最長で、平均２～３ヶ月かけて行います。入院中にサービス調整をしますので、何度も病院や施設等を行き来します。本人のアセスメントを丁寧に行い、ニーズに沿って施設等を一緒に探します。何度も行き来したりもしますので、時間もかかり、容易ではありませんが、その方が退院後地域で安心して生活が出来るように調整するのが私達相談員の仕事です。

地域移行支援は我孫子市内でも実績は多くなく、他の相談支援事業所でも積極的に実施までには至っていませんが、サポートセンターけやきで実績を積み、今後他の相談支援事業所が関わり、一人でも多く地域移行が進むことを願って今後も支援を継続していきたいと思います。

（サポートセンターけやき　樋口 恵理子）



2025 年 8 月 4 日発行（毎月 12 回 2・4・6・8 の日）　第 5661 号
SSTL1994 年 8 月 24 日第三郵便物承認

# おおばん保護者交流 BBQ

今年度、おおばんでは令和元年を最後にコロナでストップしていた家族会をどのように再開させるか、ご家族にアンケートを実施し、頂いたご意見から、土曜日活動の様子を見ていただくことも目的とし交流会として６月末の土曜日、柏の「沼南ゆめファーム」にてバーベキューを開催しました。当日は心地よい気候と新緑の中、利用者・ご家族・職員全員が自己紹介を行い、４グループに分かれて火起こしから食材の準備などを行いました。共同で作業をすることで緊張感なく会話もでき楽しい雰囲気でのスタートになりました。ひとしきり食事を終えたところで、保護者の皆様には保護者同士で語り合える時間を作るため、利用者と職員はファーム内の散策に出かけました。シーソーやフォトスポットを楽しんで戻り、冷たいフルーツを食べて保護者の皆様の真剣な表情も和んだところで終わりの時間となりました。食事を含めて５時間ほどの交流会でしたが、ご家族の皆様と堅苦しくならずに日頃の家庭やおおばんの様子をお話ししたり、保護者同士で情報交換を行ったりなど有意義な時間になったと感じました。

日々、ご家族・職員は別々の場所で共に見えない苦労を抱えながら、それでも利用者の皆に安心していて欲しい、幸せであってほしいと互いに願い側にいるのだと思っています。見えないことや知らないことで人は不安を募らせていくものです。おおばん職員は些細なことでもお伝えしていくことを日々心掛けています。利用者を中心に生まれる人間関係が優しく強固なものになっていくように、これからも「相手の気持ちに寄り添うこと」を何より大切におおばん一同努めていきます。ご家族の皆様お忙しい中ご参加いただき有難うございました。次回の交流会でまたお話しできることを楽しみにしています。

（おおばん 管理者　栗原 千鶴）

# ふれんず活動の様子

つい最近4月に新学期を迎えたと思っていたら、「もうすぐ夏休みだ～！」という子どもたちの声でもう夏がきたのかと、時の流れの早さを感じた今日この頃。

さて、最近のふれんずの様子は･･･梅雨の時季、雨が降っている日にみんなでおやつ作りをしました。デコレーションケーキ、フルーチェなどなど。包丁を使ってフルーツを切ったり、材料をボウルに入れて混ぜたり、クリームを塗ってデコレーションをしたり･･･みんなの真剣な表情や丁寧に調理する姿が見られました。様々な食材に触れたり、みんなで協力して作る楽しさ、一緒に食べる楽しさを感じられるように、今後も調理やおやつ作りの機会を作っていきたいと思います。

また夏休みに入ってからは、夏ならではの水鉄砲等を使った水遊びや、小･中学生向けにプール遊びを行いました。水鉄砲を使ってお互いに水をかけ合い、職員も一緒になり毎回びしょ濡れになるほど盛り上がっています。プール遊びは今年度から、事業所の玄関前にビニールプールを置いて行えるようになりました。「冷た～い！」「気持ちいいね」と冷たい水の感触を全身で楽しんでいる子どもたちでした。

今後も季節ならではの遊びや行事を企画しています。子どもたちと一緒に大人も楽しみながら、ふれんずでの余暇の時間を充実したものにしていきたいと思います。

（ふれんず　小原 真子）

# 人間の尊厳とは　～津久井やまゆり園殺傷事件を通して～

人間の尊厳とは、日本国憲法 13 条で「すべての国民は、個人として尊重される」と明記されているように、個人が生命や生活を尊重され、人として大切にされるべき価値とされています。つまり、年齢、性別、障害の有無、職業や出身に関係なく、すべての人が自分らしく生きる権利を持ち、その存在がかけがえのないものとして認められるべきだという考え方です。

津久井やまゆり園殺傷事件が、2016 年 7 月 26 日に起きてから 9 年が経過しました。私は、この凄惨な事件をニュースで見た時、多くの重度知的障害者が被害にあったこと、そして加害者が元職員だったことに大きなショックを受けたことを、今でも覚えております。その後、色々な調査で植松聖死刑囚の犯行動機が明らかになり、「障害者には生きる価値がない」と主張していることがわかりました。優生思想を根源とした、障害者に対する偏見・差別が植松死刑囚の動機のひとつでもありました。これは非常に恐ろしい考え方であり、また社会に潜む無自覚な差別意識が、こうした事件の背景に少なからず存在していたことを示唆しているようにも思えます。このような事件が二度と起こらないように、障害がある人も、ない人も、すべての人の尊厳が尊重される社会をどう作っていくか。これは福祉に携わる人間としての責任であると同時に、ひとりの人間としても、生き方や価値観を問われる重要な課題だと感じています。自分が暮らす社会のあり方について、一人ひとりが意識的になることが求められているのではないでしょうか。

私自身、従兄弟が重度知的障害者であり、私が福祉を志すきっかけでもありました。私は従兄弟との関わりにおいて、最初は子供ながらに怖い、どのように接したら良いのかわからないといった気持ちがありました。しかし、時間をかけて少しずつ接する中で、彼の表情やしぐさ、反応から気持ちを読み取ろうとしたり、家族の関わり方を見て学んだりすることで、自然と心の距離が縮まっていったように思います。私が見てきた、本人やその家族の大変さ、生きづらさは、当事者が経験したうちのほんの一部にすぎないと思いますが、その中でも障害者に対する偏見や差別を感じることがありました。こんなことを言っている私自身の中にも少なからず、それに近い感情的なものがあったのだと思います。だからこそ、自分自身が無意識に持っているかもしれない偏見に気づくこと、そのことと正直に向き合うことの大切さも実感しています。

私はそんな彼（従兄弟）や家族と関わる事ができたからこそ、障害があって意思疎通が難しくても、その人を理解しようとして、少しずつ知っていく事で、その人の人生があり、幸せがあり、支え合う家族があり、命の尊さに違いないという事を学ばせてもらう事ができたと思っております。その経験は、私の中でとても大きな意味を持ち続けていますし、今でも福祉の仕事に関わる際の原点として胸に残り続けています。

今、私は福祉という職に就き、つくばね会の職員として働いています。その中で、二度と津久井やまゆり園のような事件が起きないために、すべての人が尊重されて生きていける社会を実現するために、つくばね会が掲げる法人理念「共に生きる」を実現していく事が大切だと考えます。この理念は単なるスローガンではなく、日々の関わりや姿勢の中で実際に体現していくべきものだと思っています。

その為に、利用者の方や職員だけではなく、地域の方、福祉に携わる方たちと対話を重ねていく事で、何かしら地域の中での繋がりを意識できる人が増えていくと良いと思っております。小さな気づきの積み重ねが、やがて社会全体の価値観や風土を変えていく力になると信じています。そして、そうした繋がりの中で、誰もが自分の居場所を見つけられるような社会を、これからも目指していきたいと考えています。

（楓 管理者　青木 恭子）



2025 年 8 月 4 日発行（毎月 12 回 2・4・6・8 の日）　第 5661 号
SSTL1994 年 8 月 24 日第三郵便物承認

# けやき社会センター　平日選択外出

## ～　東武動物公園　～

６月６日(金）東武動物公園に利用者５名・職員５名で行きました。梅雨入り前でしたが、気温が高く夏を感じる一日でした。

利用者の皆さんも各々、動物を見ながらマネをするなどして、楽しさを表現していました。また、猿への餌やり体験をすると、小さい猿にあげようとしていましたが、特定の猿が何度も食べに来て、それに対して声を掛けるなどの様子も見られました。着いてから日差しの中を歩いていることが多く、利用者の皆さんも疲れが見られましたが、昼食を摂ると体力が回復！ 昼食後は、まだ見られていない動物や乗り物を見学し、ジェットコースターを見て乗りたい！と反応する方もいれば、怖いな…と乗りたくない気持ちを表現する方もいました。１日を通して、暑い中を歩いていることが多かったため、帰る前に飲み物休憩をしてから帰りの車に乗りました。車内では、疲れて眠ってしまう方もいました。
利用者の皆さんにとって楽しい思い出になってくれたと思います。

（植木 恒太朗）

## ～　東京ディズニーランド　～

６月 11 日(金）利用者 17 名・職員６名で東京ディズニーランドへ行ってきました！

〇〇年ぶりのディズニーランド！という方も多くいる中で、職員も利用者の皆さんもドキドキとワクワクでいっぱいのお出かけとなりました。いざディズニーランドが近づいてくると目が輝いてくるのが伝わってきました。

到着すると更に嬉しそうな表情を見ることが出来て職員も一安心。昼食を食べ、パレード鑑賞。キャラクターに手を振ったり音楽に合わせて踊ったりと大興奮の時間でした。そしてその後はジャングルクルーズを１台貸し切りで乗ることができました！目を輝かせながら楽しむ方もいれば、段々と怖くなっていき職員に抱きつく方、泣き出してしまう方など様々でしたが、「みんなで一緒に乗ること」が出来た事がとても良い思い出となりました。その後は乗り物組、グルメ組、お土産組とグループに分かれて楽しみました。

私達のような、福祉施設でディズニーランドへ行こう！となった時に事前知識や準備が沢山いる事を学ぶことができました。

そして何よりもみんなで行くことができて最高の思い出となりました。

（三崎 彩夏）

## ～　アクアワールド茨城県大洗水族館　～

６月 20 日(金）梅雨時期とは思えない快晴の日、利用者 9 名・職員 5 名の 14 名で大洗水族館に行きました。途中パーキングで休憩をとりながら 2 時間ほどで到着。車の中では「一緒に泳ぎたい。水槽の中に入っちゃおうかしら」とどんな魚たちがいるのかと話が盛り上がりました。けやきで通所されている時とは違った姿や会話が生まれるのも職員として楽しみの一つです。

到着後、昼食を食べ、いざ水族館へ。3 コースのうち水族館を希望された利用者の皆さんですが、実際に水槽の中にいるサメやイルカ、アシカなどの魚たちを観て、「怖い」となってしまうのか「声を出して喜ぶ」のか「暗がりでかくれんぼ」をしてしまうのか、ドキドキワクワク。実際には利用者の皆さんは水槽の中を優雅に泳ぐ魚たちを、静かに目で追いながら観賞されていました。

何を感じ、何を思って観ているのか、きっと私と同じで「海の中を優雅に泳いでみたいな～」と思っていたかもしれません。お土産を購入し、水族館を出発。帰りの車中でも「楽しかった」と言う方が多く、満喫されたご様子でした。

「イルカ・アシカオーシャンライブ」を観る時間がとれなかったのは残念でしたが、また次回どこかの水族館へ行く時には、魚たちのショーも観て楽しんでいただきたいと思います。

（小嶋 史樹）